



山口県本部版

NO 291

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

山口県本部

〒754-0004

山口市小郡金堀町

21番の1

林洋武方

電話&FAX

083 (972) 3987

“えん罪を許すな、全国統一行動

日本国民救援会山口県本部は12月9日
山口市内の商店街で再審法改正を訴えました

- ◆ 岸田政権の軍拡はやめさせよう！ 今後5年間で43兆円。待ち受けるのは、大増税です。
- ◆ 育児一時金42万円を50万円に増額、財源は後期高齢者医療費の2倍化で余る予算を使う。国民同士を分断させる岸田政権に、地方からノーの審判を！
- ◆ 12月18日、下関市で市田忠義党副委員長を招いて、日本共産党の演説会開催。午後2時から下関市勤労福祉会館で。2月5日投票の下関市議会議員選挙の勝利をめざします。
- ◆ 全面勝訴したセンチュリー裁判について山口県が控訴。この間の経過や、広島高裁での闘いについて12月3日に学習会を開きました。
- ◆ アジア・太平洋戦争開始81周年の12月8日山口県革新懇(藤永佳久代表)は、県内5コースと宇部市内で軍拡反対を訴えるキャラバンを行いました。
- ◆ 2022年度の山口県消費者大会が12月12日山口県保健会館で開かれました。
- ◆ 12月10日「山口消費税をなくす会」は山口市内で、インボイスについての学習会を開きました。
- ◆ 国賠署名は11月末現在で117筆です。
- ◆ 同盟の年末カンパ、会費納入にご協力をお願いします

日本共産党創立百周年によせて (1)

日本共産党は一九二二年七月十五日に創立され今年は百周年です。戦前の暗黒の政治のもと平和と民主主義の旗を守り抜いてたたかった山口県出身の先人達を紹介いたします。

(この文章は共産党地域新聞『明るい山口』に連載されたものを転載します。) 治安維持法同盟県会長 林洋武

自分の真の生活・真の時代 市川正一について

山口県出身の政治家・日本共産党の指導者だった宮本顕治は「お国自慢が二つある。まず光市の美しい虹ヶ浜だ。もう一つは市川正一という人だ」と語ったことがあります。宮本氏が尊敬し自慢するその市川正一は日本共産党の創立者の一人で創立以来の党中央委員でした。彼は一八九二年生まれ宮本氏より十六歳年上、山口中学(現山口高校)をへて広島高等師範から早稲田大を卒業しました。読売新聞の記者や雑誌記者などをしながらロシア社会主義革命や米騒動の影響のもと科学的社会主義を研究し日本共産党の創立に参加しました。当時の政府の激しい攻撃をかけた創立者の中には「党活動は時期尚早」など党の解散を言い出す人もおりました。しかし、市川正一は「解党派」の策動に反対し一九二八年の三・一五事件(成立したばかり

の治安維持法で全国千六百余名の黨員や支持者が検挙された)で打撃を受けた党の再建に取り組みました。彼は一九二九年の四・一六事件(二度目の全国的弾圧一千余名の検挙)の直後に検挙されました。彼は三・一五事件、四・一六事件で検挙された多くの黨員を励ましながら絶対主義的天皇制の野蛮な裁判のなかで不当な弾圧を追求する公判闘争をたたかい抜きました。この公判廷で陳述した「日本共産党闘争小史」(改題「市川正一公判陳述」)は「日本共産黨員となった時代が自分の真の時代、真の生活である」など多くの名言をのこすとともに党の存在意義も明らかにしました。彼には「無期懲役」の判決が下されましたがいつさいの変節の勧誘を受けつけず官憲に屈しませんでした。獄内の待遇は最悪で、歯が悪いなか主食として与えられたトウモロコシやコウリヤンの雑穀を指でつぶして口に入れ生き続けようとした。しかし、日本の敗戦の直前の一九四五年三月一五日に仙台の監獄で五十三歳の若さにもかかわらず「老衰」で命をおとしました。党は創立五十周年記念に当たって市川正一記念碑を本籍地の近くの光市鮎帰りに建立し党県委員会は毎年彼の不屈な生涯をしのび党の健闘を誓う碑前祭を行っています。この碑の裏には公判廷での陳述「党の発展は必然である。党の勝利すなわちプロレタリアートの勝利は必然である」が刻まれています。